京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價　一部金[illegible]　一ケ月前金[illegible]　六ケ月前金[illegible]
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久帥一郎
京城西部西小門通（電話六六二）
發行所　京城新報社

年始雜俎

ヅイ、エッチ生

▲明治四十三年も泰平無事の春に明けまして互に目出度太平御代を迎へました故では年の始めのれ目出度さに因んで正月儀式のれ飾をして見たいと思ふのである

▲松の内　とは元日より正月十五日迄を云ふので或は注連の内とも云ひます、つい近年まで江戸にては七日に門戸の飾りを除くのが風俗でした

▲睦月　とは正月の異名である正月は知る人なるは互に行き通ひて愈々親しみ男女老若相集りて睦まじくする月なれば此の月をむつびづきと名づけ其れを略して『むつき』と云ふのである

▲屠蘇　をれ正月に飲むのはもと支那から來た風俗である支那では『惡鬼を屠りて人の魂を蘇生せしむ』と云ふ意味で屠蘇と名づけたので魔よけの爲めです日本でも屠蘇を飲むことは古くからあつて朝廷では元日より三ケ日朝天子様が淸凉殿と申す御殿の東廂に御出御遊ばして御膳をれ召しになり次に藥子と云ふ可愛ゆい童女のれ酌で御屠蘇の入つてる御酒を嘗めて帝に奉るのが屠蘇です

▲門松　も支那の風俗です尤も支那では門戸の神様を祭るために木の枝か何かをさしあげたのが元で門松となつたのだが日本ではそうでなく松は千年を契り竹は萬代を契るものですから年の始めに祝ひ用いて飾松や竹飾をするのです

▲飾炭　と云ふて木炭を門松に飾るのも支那の風俗で大晦日につける定めです此れは邪惡を避くるための魔よけです

▲譲葉　をれ正月に用いるのは此木は新しい葉が生ひそろうて後に舊葉が落ちるので譲葉と名つけ又親子草ともいふてれ芽出度いものとするのです

▲數の子　は鯡の子であるこれをれ正月の祝いのれ肴に用いますのは子供の多いのを貴とよ義に取つたのです

▲齒朶　は又裏白とも云ひ葉は齒が狗脊に似て居ます四時枯すに居る草ですから元日の嘉祝の物に飾るのです

▲芋頭　を俗に亊の頭と唱へますのは昔は長官のことを頭と申しましたから例の祝詞です偖て芋頭を用いるのに子供の多い義に取るのです

▲昆布　を尊ら嘉祝の物とするのは和名『よろこぶ』と云へる訓に似て居ます所から目出度い爲めに取つたのです又昆布を新年の雜煮に加へるのは『むつびよろこぶ』と云ふ訓の近かいためです

▲飾海老　は俗に伊勢海老とや稱しまして賀祝の食物に充てます其のわけは紅蝦は俗に海老と書き長く年をとると云ふ意味でれ目出度いからです

▲野老　は小さな白い花を開き三稜の青い子を結ぶ薯蕷のことです俗に野老と書いて海老と共に長壽に因んで嘉祝の食物に喰べます

▲橙　の實は霜後に黃熟しますが春になると色濃くなり久しきに耐へて夏よりは綠色を變じて青くなり丸で新舊辨ずべからずと云ふ風になりますから俗に呼びて代々と名づけます苦酸くて喰べても不味いけれど名が代々繁昌すると云ふに似通ふてれ目出度い所から嘉祝の果實とします

▲蜜柑　は橘の一種類でお昔天子様が正月初二日に橘を群臣に賜はれたと云ふ故事があるのでそれから古今橘を以て嘉祝の果と爲します尤も蜜柑は霜雪に堪へる故でもあるからです

▲搗栗　は搗の訓を勝の字にかへて諸勝負の利あるを悦びてこれを用ゆるので多くは武士が戰爭に勝つと云ふ意味から珍重したのです

▲串柿　は柿を竹の串に貫いて乾たものですこれを新年嘉祝の物として蓬萊臺に用ゆるのは串柿の柿が物をかきとると云ふに似通ふからです

▲注連飾　しめ繩と云ふものは左繩によりて繩の端を揃へぬものです左は淸淨な由來があるので端を揃へぬのはすなはなる心です淨不淨を分つ故に神事の時は必ず引くのである正月の神を祀ひ祭る心です

▲猿曳　はもと廐に猿を繫ぐと馬の病氣をよけると云ふ所から猿を鮮して廐の祓ぞするのでこれは馬櫪神といふ廐の神を祭るのです

▲寶引　寶引は今に盛にすることですが其の種類は僧の異名を福生果と申します故餅を賄と唱へ古へ賄引とて餅を二人して引き合ふことがあつたのに始まつたのだと云ひます

▲初夢　とは大晦日の夜より元日の曉までに見る夢を云ふのです西行法師の詠んだ歌に『年くれぬ春來べしとは思ひ寢のまさしくみえてかなふ初夢』とありますから初夢を和歌によむのも古いことです

▲寶船　を敷くのは例の支那の風俗で支那の宮中では紙船と名づけて船の形を描いて白紙に貼附たものを群臣に賜はると聲が其れを大晦日の夜寢床に敷いて寢て若し不吉な夢を見れば其の紙船を流すのです併し日本では今俗二日の夜に寶船を敷きます

▲御降　とは元日に降る雨雪を云ふのです

▲齒固　とは人は齒を以て命とする故齒の字を『よはい』と訓み齒固は命を固むると云ふ意味です昔は齒固の具は押鮎、大根、橘、餅など種々の物を具したのです

▲鏡餅　本邦は古へより餅を以て神明の供として大圓塊に作りて鏡の形に擬し餅を呼びて鏡と稱しますこれは八咫の鏡に擬したのださうで申しますが其の說はともかく正月朔日必ず餅を以て諸神に供じ及び一家の長幼團欒して同じく鏡餅をすゝめて新歲を賀します

▲雜煮　は餅に大根、芋、蹲鴟、昆布打あはび、いりこ、菘等を加へて羹として食ひますので多種を交へ煮る故に雜煮と稱するのです

あたらしき年のはじめに思ふどち
いむれて居ればうれしくもあるか
（萬葉集）

日本銘刀傳

第十一席　邑井一　講演

一同『へー〳〵　象『皆も熟く考へて見ろ今日本國中に俺の外に刀鍛冶らしいものは一人もありやあしねえ……そりやあさうと手前達も俺が日本の大宗匠と云ふことになりやあ、同じ備前に住ひ有難さに俺のれ陰で手前達の刀も賣れるやうになる、手前達も旨い酒が飲めるやうになるらあ　甲『何うも恐入りましたな、然し先日或所で相模の正宗を見ましたが、なか〳〵の業物で實に吃驚致しました　象『コレ〳〵馬鹿を言つては困る、正宗はまだ〳〵二十を越した許りの小童だ、それに相模は水の惡い所だ、正宗だらうが行光だらうが立派な刀が鍛てゝ堪るものか、先づ眞に日本中に刀鍛冶は二人しか無からう　甲『二人と申しますと誰と誰でございます　象『一人は此の俺よ　乙『後の一人は……　象『後の一人は正宗が半人前で、殘りの半人前は日本中の同業者を悉く寄せてそれで半人前になる　一同『へー〳〵、ナル程……　餘りの高慢に皆々驚いて象光の家を辭し、幸ひ備前中の刀鍛冶が集つたのだから何家かで一杯飲まふと云ふので、或料理屋へ上つて酒を飲みながら　甲『何うだい、隨分法螺を吹きやアがつたな　乙『何て傲慢な奴だらう、[illegible]きれやアねえ、[illegible]に默つて居るのだらう、[illegible]は好いなア　丁『何うだい物は相談だが、れ互に出し合つて二人許りを都へ遣つて、一日も早く誰が第一に撰まれたか、聞いて來ることにしたら宜からう　戊『其奴は宜い考へだ、二分づゝ集めたら二人許り京へ遣れるだらう　癸『そりやア宜い〳〵』忽ち二十人許りの者から金を集めて路用を拵らへ、二人の氣の利いた者を都へ急ぎにやつた、二人の者は早速手を廻はして探りますと、二條關白殿の御取計らひで相模の五郎正宗の刀が第一等に撰まれて正宗が日本國中の鍛冶宗匠大本家となると云ふ噂さが高い二人は　甲『何うだい、五郎の刀に極まつたと云ふぢやアねえか……　乙『象光は何番目だね　甲『備前の象光は二十一番目だ　乙『ナニ、二十一番目、其奴は面白い、彼奴の泣面見物だらうな　甲『サア早く注進しやう』と云ふので、二人のれせつかいは宙を飛んで歸つて來た、忽ち廻狀を廻はして一同を集め『さあ皆、都の樣子を話すことにしやう　丙『早く〳〵聞きてえもんだ　丁『正町に象光は一番で[illegible]はあるめえか　甲『象光も[illegible]は一番どころか、二十一番目だ　戊『其奴は生意氣だ　乙『人の番目を見て象光と云ふ奴があるものか　癸『誰だ、日本の鍛冶宗匠になつた人は……　甲『相模の五郎正宗と聞いて居る　丙『左樣だらう、さうして何日當地へ報知が來だらう　甲『明日れ觸が出立つてねのを聞いて來たいで、詣つて來たのだから大方一日違ひで多分明日來るだらうよ　乙『夫れぢやア明日は當所に早朝から麻上下で立派に外飾つて象光の所へ繰り込んでやらう　丙『宜からう、惡樽と云ふのを拵らへてやらう　乙『惡樽と云ふのは何樣なものだ　丙『空樽を一つ買つて來て、一同で尿を一杯するのだ、小便樽を酒樽の積りにして擔込むのだ　乙『其奴は面白い　乙『魚を一つ拵らへなければならねえ　乙『そりやア明朝で宜いや』皆悅び勇んで其夜は思ひ〳〵の旅宿へ立歸つた、何しろ平生から惡まれて居るのだから堪らない、斯う云ふ時に仇を討たれます



東京電報

●日本經濟の好望 客臘來財界は多大の好望を期待せられ鐵道事業の擴張新事業の計畫行はれんとし自ら活氣を帶べり(四日)

●我政府の御用始 本日午前十時桂首相以下大臣等總理官邸に參集し夫より參內して御學問所に出御遊ばされたる聖上陛下に拜謁仰付けられ諸臣を代表して御用始を奏上し更に種々の式を擧行して退散せり(同上)

●駐剳軍武官異動 韓國駐剳軍司令部附陸軍步兵少佐原田某氏は第四十七聯隊附に竹本竹次郎氏は駐剳軍附に補せられたり(同上)

●製鐵所技師兼任 製鐵所技師服部漸氏は今回鎭南浦製鐵所技師兼任を命ぜられたり(同上)

雜報

●宮中の新年宴會 今五日午前十一時より宮中に於て新年宴會を催され在京の勅任官以上の日韓官吏は何れも參內陪席すべしと云ふ

●韓皇勅使差遣 三日曾禰統監歸朝に際し韓皇は侍從院卿を勅使として仁川迄差遣されたり

●統監府の御用始 統監府にては昨四日午前十時石塚總務長官以下一同登廳高等官以上は一堂に會し新年の祝詞を述べ散會したり

●韓政府の御用始 各部は四日午前十時登廳大臣次官の訓示あり各部に於ては夫々代表し之に答へ挨拶の上正午退廳したり

●內部の用始次第 內部にては昨四日午前十一時三十分內部大臣より高等官一同に對し用始めの挨拶ありたる後之に對し土木局長國分氏一同を代表して答辭を述べ終りて判任官に對し鶴井警務局長は職員一同に對し訓示をなす處ありたり

●曾禰統監の東上 曾禰統監は石井、外波の兩副官、佐竹秘書官及び國分藤井長官を隨へ三日午前九時三十分南大門發の汽車にて仁川に赴き午後一時仁川港を拔錨して東上の途に就きたるが途中馬關及び宮島に各一泊の上大阪に於て……入り……

を以て見送られ統監府側より石塚總務長官以下各高等官及び韓國側よりは各大臣等多數見送りをなしたり

●統監出發と仁川 曾禰統監及び同家族一行は多數の日韓官民に見送られ一昨三日午前十時廿八分仁川驛に到着……

●統監代理を置かず 統監不在中統監代理を置くべきやに就ては種々の説ありしが當分の間は統監府事務は石塚總務長官之を取扱ふべしと

●仁川港の祝賀會 仁川官民聯合の新年名刺交換祝賀會は既報の如く去る一日正午より仁川倶樂部に於て擧行せられしが先づ奥田……

●外務部長の任命 統監府外務部長は鍋島氏退任後小松書記官事務を取扱ひ居たるが……

命統監府外務部長 小松緑

●李完用氏の容態 李完用氏の容態は其後經過良好にて……

●犯人審問の經過 京城地方裁判所に於て審理中なる李完用氏の刺客李在明……

め方面迄及び居るが故最も注目すべきは李在明と伊藤公暗殺の一派と連絡の有無にして審問の進行に伴ひ意外の事實の判明するならんと

●二鐵山と我政府 從來農商工部にて經營せる載寧殷栗の二鐵山は日本農商務省に讓渡したるが其面積は一萬九千二百六十一坪にして讓渡の形式は韓國鑛業法に基き……一箇年五十錢宛此……四十六圓三十錢五厘……し外に鑛産税金百……なりと云ふ而して……を以て授受する筈……の上其手續を了す

●兩年度豫算比較 ……は既報したるが昨年度に比し……に於て三十九万六……に於て七百九十一……減じたり其增減の理由は經常部に在りては……廢止の爲め間税の收入な……利子の減少した……七萬二千九百圓……業の整備したるに依……增加したる……税收入は增加したるは……士の發見等に依る增加と官業及官有財産……工事の落成に伴ひ水……産業擴張の爲め平……收入に於て……入金……百十七万六千八百……を以て差引三十九萬……減少したり臨時部に在りては……公債金を財源と……部額の減少に從ひ公……借入金に於て日本へ……之れに伴ふ借入金の……換へに於て繰換を要……る繰換金額の減少す……一萬六千二百六十

●韓國財務機關(一) 韓國の財政は……紊亂宮中府中の混同……入の不整頓等に基因……にありて財政の機關……有せず近く會計法の……殆ど空文に屬し歳出……不明の情態に在りき……の日韓協定書により……顧問の傭聘を見爾來該……の整理金庫の設立貨幣……の設立徴税制度の改……等極力財政の整理に……の施設漸次其緒に就……光武十一年七月締結せられし日韓協約の結果として財政顧問は其職を去り隆熙二年　月……の實施を見當國行政機關の組織に於て更に一新生面を開くに至れり蓋し新官制は從來の顧問制度に一歩を進め日本人を韓國官吏に任用し直接責任の地位に立たしめたるものにして換言すれば從來裏面に在りて監督せしものゝ表面に現はれたると同時に行政組織の統一及各機關の連絡上必要の整理を期したるものなり今該新官制に據る財務諸機關組織の大要を述べんに(一)舊財政顧問部に於て管掌せし事務は凡て度支部に移屬し(二)度支部に官房司税局理財局を存置し(三)從來財政顧問部に於て管掌せし財源調査事務は擴張せられ度支部の一局として新設を見るに至れり(未完)

●大內代議士時局談 目下滯京中の進歩黨院內幹事大內暢三氏時局に關し左の如く語れり(電通)

日韓保護條約締結以來之が實行の必要に迫られ更に幾多の協約又は覺書の交換續行せられ韓國統治の大權は其一二を除くの外殆んど吾帝國の手に委せられたり然れども世界平和の大勢は到底現狀の推移を容るさず倍々日韓關係の進展を促がしつゝあり遂に國家の問題は自ら國家の實行機關によりて實行せらるべく而して其機關の活躍は輿論の鼓舞に負ふものとす而かも誠意なき問題は總べて實行に至らずして止む豈に慎まざるべけんや元來吾が保護權は自動的のものにして他動的のものに非ず故に韓國の指導啓發上に關する事項は一切韓國官民の意嚮より發動すべきに非ず如何となれば理解力なき國民に輿論の存在する筈なければなり惟ふに彼れ吾が要求に應諾せざるべきを顧慮し躊躇逡巡決する能はざるが如きは所謂保護の權能を無視するものにして自ら卑下するの甚だしきものなり則ち東洋平和の爲めに必要ありとせば斷々乎として保護權の運用を試み活殺自在ならしむべきのみ列强豈に又之を拒否すべけんや唯だ吾輩は現行の保護制度に對しては甚だ慊焉たらざるを得ず則ち政會に逹し出で韓國上下をして其適從に苦ましむる合邦非合邦の如きは茲に論ずるの限りにあらざるなり乞ふ見よ現在の統治狀態を外交軍事司法交通通信及財政の一部等國家樞要の諸機關は吾帝國に委せられ居るも內治上樞要の行政は尚ほ韓政府の手に存置せり彼は委任し是は委任せざるが如き實に不經濟の極みたるのみならず韓國啓發上決して彼の得たるものにあらず故に斯かる不健康なる制度は文化の發達を阻害すること甚だしきものと認むるを以て飽く迄之を打破し以て政務の統一軌に其單純を期待せんとす

●兩政府委員の東上 今期議會に於ける統監府の政府委員は石塚總務長官事務取扱、倉富司法廳長官、池田通信管理局長、兒玉書記官の四名なるが兒玉書記官は既に東上し石塚長官事務取扱は統監不在中到底任所を空ふする能はざるを以て倉富、池田の兩委員近く東上する筈なりと云ふ

●兩博士と法學士會 在京城の法學士會は梅博士の入京を機として六日午後六時より花月樓に新年宴會を催す筈なるが五日入京すべき京都帝國大學教授田島法學博士も同時に招待すべしと同時日切迫の爲め一々通知の暇なきを以て參會者は京城日報の限田法學士まで申込むべしと云ふ

●烏致院名刺交換會 一月一日午前九時より同地小學校に於て拜賀式を擧行し同十一時より烏致院倶樂部に於て名刺交換會あり西頭居留民總代は 兩陛下の万歳を三唱し一同之れに和し其れより宴に移り歡を盡して散會せしは午後二時頃なりしと

●菊池大韓院長警戒 頑迷なる兇徒の連累中には李總理の創傷を快癒せしめつゝある菊地大韓醫院長を襲撃すべしと唱ふる者ある由を其筋にて聞込みたるを以て万一を慮かり角袖巡査を附して警戒せしめ居れりと

●早稻田大學校友會 早稻田出身者一同は近々渡歐の途に上る井上雅二氏送別を兼ね六日午後六時翡翠樓に於て新年宴會を開催する筈なりと因に會費は金四圓五十錢申込苑は理事廳內長野氏なり

●仁川理事廳祝賀會 仁川理事廳に於ては去る一日午前十時三十分より御眞影拜賀式を擧げ尚は各學校の新年祝賀式及び大神宮に於ける遥拜式等豫定の如く擧行せられたり

●荻田書記官の出發 渡歐を命ぜられたる統監府書記官荻田悦造氏は今五日朝南大門發郷里に立寄りたる上東上十九日頃迄東京に滯在渡歐の途に上る豫定なりといふ

●京城民團の御用始 京城民團にては四日午前九時吏員一同の出廳ありたる後民長室に集合し古城民長より一場の訓示あり隨意退散せり

●廣島高師生の出發 見學の爲め昨年末より來韓し居たる廣島縣高等師範學校の地理科、歴史科の學生十三名は三日釜山へ向け出發せり

●婦人會員名刺交換 來る七日午後一時より京城ホテルに於て愛國婦人會有志は新年の名刺交換會を行ひ式後種々の餘興を催すと云ふ

●韓字新聞發行禁止 布哇にて發行の新韓民報第四十號は治安妨害ありと認められ押收せられたり

●佛總領事代理訪府 佛國總領事代理フアイヤール氏は四日朝小松外務部長を統監府に訪問せり

●大內代議士の出發 客臘三十日政務調査の爲入京せし進歩黨院內幹事の氏は四日午後退京

●中村局長東上 中村局長は公務を帶び客臘廿八日東上

●雜誌「朝鮮」 第一月號は出でたり卷首には鮮明なる寫眞版數葉を挿め旭邦子の主張「日本帝國民の使命」「合邦論」「在韓邦人と趣味」共に三讀すべし論說欄は神谷鬼山子の「亞細亞に於ける歐州列國」を初めとし道家技師、久能、藤村、下森、竹村博士等の寶貴ある論議を網羅し其の他研究、寄選、訪問、雜纂、諸欄悉く再讀すべき價値あり人物評論に至つてはヒマラヤ山人の獨擅場たり到底企て及ぶ可らざる妙辛辣なる品隲を試めり文藝、朝鮮問題あり本號には拓殖會社の人物と題して共に好讀物たるを失はず見に角號を重ぬるに隨ふて著しく其面目を革むるもののあるは朝鮮雜誌界に比を見ず實業家の好伴侶たり韓國に事を成さんとする士は必らず一本を左右に備ふべきなり△毎月一回發行一部二十五錢△京城本町九丁目其社

●井上雅二氏招宴 曩きに宮內府書記官を辭職したる井上雅二氏は近日當地を引揚げ歸朝することになりたれば來る七日午後五時より京城ホテルへ新聞記者通信員等を招きて盛宴を張る由

●兒玉書記官消息 兒玉書記官は目下東上の途郷里山口に滯在中なるが多分曾禰統監に隨ひ東上すべしと云ふ

●安住書記官歸京 安住法部書記官は四日午前八時四十分南大門着歸京

三南線の基點問題
(大屋長官に肉薄す)

三南線の敷設決定と同時に起るべき問題は即はち基點問題にして其基點候補地として目さるゝは言ふ迄も無く大田烏致院の二箇所にして兩地共既に數年以前より之れが運動に着手し或は鐵道沿線の土地を買占め坏して徐ろに其時機を待ちつゝありたり大田は世人の知る如く烏致院よりも遙かに人口多く發達の度も速やかなりしかど四圍の交通は烏致院と趣きを異にし此上鐵道の基點迄他に設定さるゝに至らんか同地の繁榮は決して持續さる事覺束なかるべしとて隨つて其運動も一層熱心なりし而して一方烏致院は公州及び清州、忠州等に通ずる要路にして物資の集散も隨つて多く殊に忠南の首都公州を通過して同線を敷設すれば物資集散の多きは勿論道路平坦にして工事も比較的容易なれば必ずや同線を運ぶに至るべしと既くより期待する處はありしものゝ是亦運動怠りなく近く三南鐵道期成同盟會なる者を組織し委員には清州、烏致院、公州各地の有志者を網羅し而して大田及び期成會の兩者共屢々當局者を訪問して各其の希望を述べしも當局者は只輕擧妄動せざる樣堅く戒めたりしが客年十二月二十二日三日の兩日に渉り東京より歸來せし大屋鐵道管理局長は御用紙京城日報の紙上に於て三南線の基點に就ては當局者は既くに大田に決定し居れりとて突然其方針を發表したる爲め期成同盟會側に於ては今更の如く驚愕し遂に左の書面を大屋長官に提出し其の回答を促し結果如何に依つては大々的反對運動を開始せんと目下其準備中なりと

(前略)京元湖南二線道計畫に付本月廿二日より廿四日迄三日間に亘り閣下の談として京城日報紙上に掲載有之候處委細拜讀仕候右談中の中京釜線との分岐點は一種の係爭問題となり居たるらしきも我々當局は最初より太田驛を以て分岐點と決定し太田木浦間を湖南線の幹線とし更に幹線より群山に敷設するものを枝線と認め居れり尤も鐵道分岐點の如き地方の發展上大影響を及ぼすものなる故に之れを爭ふは當然なるが私設線ならば兎も角我々當局の立場としては實に大なる利害關係なき以上最も短かき哩數を以て幹線に結び付くるを本能と爲す云々と有之湖南線の分岐點は愈太田に決定せられたるものと見んも差支なかるべく候乍去右は果して閣下の御意見を直接に發表せられたるものなりや否や疑念罷在候從來我三南鐵道期成同盟會は湖南線の分岐點に就きては地方に於ける利害關係の打算上一に當局者の公平なる御措置あらん事を期待し綫に統監閣下に請願次第も有之候處若し京城日報所載の事實を以て責任ある閣下の御高見を公示せられたるものとせば烏致院を分岐點とさする本會の目的は根本的に破壞せられ剩さへ沿道四十餘萬の人民は啻に鐵道の恩澤に浴すること能はざるの悲境に陷入るのみならず地方發展上其利害關係の及ぶ所測るべからざるもの可有之と思料仕候て本會は本會將來の計畫上聊か參考の資料に供し度と存申候間右事實の如何に就き折返へし御回報相成候樣仕度茲に本期成同盟會を代表し謹んで上申仕候也

明治四十二年十二月三十日 烏致院清州公州聯合三南鐵道期成同盟會同長丸山虎之助

大屋局長宛

三南鐵道期成總會

公州、烏致院、清州の有志者を以て組織せる三南鐵道期成同盟會は別項所載の如く大屋長官の言明に對し近々總會を開き其決議に依つて直接後藤鐵道院總裁に向つて陳情する筈なりと云ふ

消防組の出初式

京城消防出初式は例年の通り昨四日午前八時三十分理事廳に一同を集合せしめ目出度其式を擧行したり桐原南部警察署長代理として酒本警部一場の訓示を與へ民團役所よりは林田助役關書記出席し勇ましく勢揃ひをなしたる後梯子昇りの技を演じて南大門に向ひ茲にて一部二部に分れて各町を練り廻り新町にて晝飯を喫して解散したり

仁川消防の出初

仁川の日本消防組は豫定の如く昨四日午前七時理事廳構內に參集して宮舘警部の點檢を受け終て掛聲勇ましく市中を練り歩き要所々々にて梯子乘等の演技を試み午後解散したり

龍山通信(四日支局發)

▲司令官參內 五日新年宴會の當日て韓皇昌德宮に於て內外の臣僚に賜宴せらるゝに就き大久保軍司令官も參內

▲陸軍御用始 軍司令部及各部隊は昨日司令官以下幕僚各部隊長何れも登廳

▲軍新年宴會 軍司令部及駐在各部隊の將校及同相當官一同は今五日軍司令部に參集し新年宴會を催す筈なりと

▲線路と軌道 釜山軌道會社の東萊鐵山間に運轉せる輕便鐵道は去一日より草梁驛に於て連絡客手荷物輸送開始

▲乘車券發行 鐵道管理局に於ては從來トーマスクック商會をして乘車券を販賣せしめ居たりしが本年一月一日より同社をして乘車券を發行販賣せしむることとし同時に從前通用期間二箇月なりしを六箇月に改めたりと云ふ

▲治外法權▼

近着の新公論に英國救世軍の總大將ブース、獨帝カイゼル、ウイルヘルム、前米統領ルーズベルト、露のトルストイ及び我大隈伯を世界の五人男として其肖像が掲げてある、之れは蓋し運の當を得たるもので早稻田大伯を有する吾人は竊に肩身の廣きを感ぜざるを得ない▲世界の五人男に擬へて京城に三人男と云ふのがある、名を申せば韓銀總裁の市原君東拓總裁の宇佐川君鐵道管理局長の大屋君だ、……を除いたら半島經營の大責任は實に是等三君の肩上に掛るのだ、トコロが不思議な事には此三君共に申合せた如く自家の職責を解せず不得要領で其日を送つて居る、今や年新たなり三君に目を覺まして貰ひたい▲曾禰統監は海路仁川から東上の途に就かれた、今頃は玄海灘あたりで嘸ぞ揺られて居ることであろ―▲揺られて居ると云へば統監の地位も今度はドーキャラ怪しい樣だ、尤も病氣の爲なら仕方もないがソコは菊地大韓醫院長殿が附いて居る事故何とかなりソーなものだ▲曾禰さんの生命は其顔色から判斷して本年一パイもつまいと云ふた人がある、併し生命は氣で持つものだ、西湖先生にして從來の心掛を一變し少しく眞面目なり玉ひて殉職の覺悟をなすに至ら本年一パイはおろか天は先生に稗すに十年二十年の餘命を以てするに違ひない▲東洋拓殖會社は一週年紀念祝をやつた、招かれて實席に列した人は祝辭の述べ方に困つたツーだ、創立後一ケ年間を無爲に經過したのは全く總裁副總裁の賜だと宇佐川總裁は挨拶を述べたツーだ。

國母陛下御還暦

▲目出度き中の新年 年新たにして萬物亦悉く新たに、九重の奥深く瑞氣棚引わたる 聖上陛下には嘉永五年の御降誕にして聖壽正に御五十九歳玉体益々御健勝にましまし去年の如きは一日の御病床だになく夏冬共に何地にも御避暑御避寒の御沙汰なく日々政務を覽はせ給ふて巨民一統感佩措かざる處にして御慈愛深き國母陛下には嘉永三年庚戌の御生誕にして本年は恰も干支戌に當らせられ且つ還暦の御齡にましますは畏くも目出度き極みにこそ

▲還暦の御祝儀 宮中の諸式は何事に依らず皇室典範に據つて執り行はせらるゝ筈なるが御還暦の祝賀に至つては典範或ひは式例等にも未だ定まつた典規なく本年新たに典例を設けて還暦御祝の式を執行はせらるゝやも知れねど多分は然る御事なく只地久節の御當日御内儀に於かせられて型計りの御祝に止めさせらるべし 陛下には常に奢侈の風儀を排けさせられ御皇室の諸式成るべく巨下の多忙ならざるかと御心に留させて折々に何かと御下問あらせらるゝ由

▲平常の御起居 陛下の御近狀を漏れ承るに玉体益す御壯健に渡らせ給ひ如何なる嚴寒と申せども必ず朝六時には御起床遊ばされ八時半迄に御身のまわりより大膳職の奉る御朝餐までを悉く濟ませ給ふのですかれ奥の事は總て權典侍以下の女官が御内儀一切の事を執り男子は出入を禁じあれば御膳の如きも大奥の御廊下續きの一間まで運び畢き午前九時半よりは奥本殿に成らせられて執務當番の各女官から日々の執務の有樣を聞こし召され又は親しく御書を覽せしめて十一時に出御、御書餐後は一時より四時迄御内事に取かゝらせられ御内用の御多忙なるは我々共の却々想像にも及ばぬ程にして且此間を通じて二時間位は御學問所に入らせらるゝのみならず毎日賜謁、出御等何かしら無い日はなく夜は大底九時に御寢所に入らせらるゝとぞ

暴徒草賊を撃つ

△何れも銃劍を携帯す 十二月二十六日賊魁韓貞萬は部下三十二名を率ひて黃海道金泉郡より開城に至り同郡古縣面に於て草賊五名を捕へて曰く汝等の所持する武器を奪取して曰く我々は國家を保護する義兵なり汝等の如き民財を盜む者は我々の敵なれば刑に處すべしとて四名を殺して白川郡方面へ向ひたる由なるが韓貞萬以下全部黄色服を着して皆モーゼル銃を所持したりと云ふ

●艶の撰び 鍾南山町巴城館に此の女ありと知られたる艶藏と云はゞ讀者先刻御承知の評判者容貌ならぬ縹緻なら食ひ詰め者の集りたる京城にては先づ稀に見るの女なるが其の心懸けの一般と云つば新刊の雜誌は丈通し次が毎日の新小說でムれ一頁ずつと讀を凝つて御丁寧に切取りての貼集何か爲めやら他目には解らねど現に角帳みもせぬ熱心なる勉强振りには上席仲居をして感嘆の聲を連發せしめつゝありとか去るにても當人年齡既に十九二十加ふるに天性の麗質は日毎に迎ふる吳越の旅人をして轉た羨望の情火を燃さしめ其の危險云はん方なしとかにて昨今上席仲居連は是が前後策として定まりし夫を持たしむるに不如となし目下大いに人撰中との事なるが茲に有力なる候補者に擬せられ居る三人の通報者あり森と云ひ三輪と呼び他に一人等しくれ艶の一所に隱密の涙を溢せし御連中なるが此の三人を好くあやなして些のぼろをも出さゞりし艶の腕も凄い者なるが借金々の落撰は誰人の頭に落ちるやらと入の頭痛を氣に病んで至極御心配の方もありとか

井門本店
政子
(戌の年で二十五歳)



●仁川藝妓腕比へ 仁川港の藝妓四十余名が年の終りの十二月中腕に撚をかけて線香の賣揚げに競ひし結果を左に記さん
勇子(一富士 九八(條亭 駒三(八坂)咲太郎(勝)光子(八坂)八千代(盛岡)君枝、香取、小富士、一昇、富美子、小梅(改名榮太郎)米蝶、吾妻、愛子、桃太郎、梅奴、榮吉、咲子、加代、福太郎、五郎、千多鈴子、勝利、福之助、千代田、三桝、小鶴、梅八、桝菊、琴代、小富美、八重山、れにて、久子、桝子、朝日、れもちや、三吉、千代子、福助、小久

●三ヶ日の水揚高 仁川敷島遊廓に於ける正月三ヶ日の標客數及び消費高を聞くに左の如し

日別	客數	揚り高
一日	八十七名	四百七圓
二日	百一名	四百四十圓
三日	九十四名	四百三十九圓

●新年の句會 來る九日の日曜を期し午後一時より京城俳人會に於て開催の筈あり兼題は年玉、避寒の二題にして各五句宛を當日持參の事 御會費として金十錢外に三十錢の參與費用ありそしど

●滊車で大負傷 二日午前六時南大門發列車洛東江驛通過の際轢傷者過つて機關車に觸れ兩脚を切斷さる

●馬と車の間違ひ 岐阜縣生れ當時本町二丁目三井物產會社雇高橋房吉(二九)は去る三日午後四時頃自分飼養の乘馬に乘り古市町先なる十五間道路を疾驅中龍山より驅せ來りたる別府組の車夫山田久松の車体と衝突なし人力車を蹴倒し乘客を刎ね飛したる騷ぎに車夫より出訴破損せしめたる車体を賠償の上說諭放還

●不目出度い只飲 京城旭町一丁目山田方同居黑田清畝は三日午後十時頃長谷川町一丁目千代の家にて散々飲酒の結果泥醉不覺となり此上の土產に一文なしとムりければ亭主不性不性同行訴へ出づ

▲演藝 京城座は伊井蓉峰、湖川辰馬等の新派に中村梁時一座の舊劇と合併して開催非常に好評なりと▲浪花館の浪花節、歌舞伎座の活動寫眞は相變らずの好評なり▲壽座の伊東一座は五六名の俳優を增加したる事とて非常の大一座となり益々好評なるが本日の替りは色と慾鸚鵡の聞分けにして場割及び配役左の如し

△場割 (一)佃沖(二)秋山家正巳坐敷(三)異島邸宅(四)赤羽根踏切(五)中澤岩太宅(六)芝濱館坐敷(七)中澤貸家(八)牛之御前(九)秋山家坐敷(十)谷中墓地

△配役 馬鹿御前秋山正次(小泉三)醫學士牛淵吉彌(泉)舟貸業中澤岩太(北秋)秋山家家扶原田吾一(芳川)壯士木之下猛夫(高井)水澤よし子(藤島)秋山春子(小水野)秋山正巳(小泉英)辯護士異島憲(伊東)

▲迎春賀評 譯雪庵千恭

△元旦の各新聞紙 いかいかい
初刷りや目出がらるゝ社會記事

△千里同風の嘉辰
新年の露見事なり乞食小屋

△京城市民の初夢 いかいかい
初夢や三千兩のたから籤

△韓國學生の試筆
排日の文字ならべけり筆はじめ

△韓政治家の迎春
鼠一匹ヲンドル覗く御慶かな

各地の新聞

●郵券消印の取締 遞信省の徵章たる〒字形は從來何等の取締規定なかりしより帽、被服、旗幟、標燈、標札、車輛、文書、郵便受函等に之を濫用し居る爲め種々間違ひを生じたる例少からず依て同省は今般電話番號標札及び振替貯金口座番號等の爲に使用するは別として其他は必らず同省の認可を經たる後に非らざれば濫りに使用する事を得ざる事とせり又模造郵便切手を廣告等に貼付し或は郵便葉書、消印等を模造印刷して廣告用に配布する事も間違ひを生じ易きより同じく特に許可を受けたるものゝ外は禁じたり尚萬國聯合條約政府の發行に係る切手類に紛はしき物は一切使用するを得ざる事となる

●樽久五世の孫逝 鹽原多助一代の勤儉は故三遊亭圓朝の人情話によつて女童にさへ知られ後故尾上菊五郎の演劇によつて多助の生涯に一大光彩を添ふるに至りたるが其多他に娘を嫁したる舊御用達竹下屋久八の五代目浪上露次郎(三五)は英學者尺振八の門に入り故田口卯吉沼間守一等諸氏とは同窓の友として親しく后かなよみ新聞の社員となり其後郵便報知新聞の客員となり傍東京物價新聞と云ふを起し株式仲買の業に從ひ居たるが本月上旬より肋膜炎に罹り東京深川和倉町一七の自宅に加養中なりしも藥石効なく昨日午前一時遂に死亡したり

▲長さ六間の大鯱 去歲廿六日丹後加佐郡東大浦村字田井の漁夫が同村沖合にて捕獲したる鯱は長六間實に稀有の大鯱にて近々大阪千日前に現はる可しと

▲大蘇鐵樹の燒失 東京日比谷公園內は冬仕度に忙しく大切な植物は悉く霜除の藁を着せ居たるが有樂門內花壇中央の大蘇鐵十五株も去歲廿七日午前中に霜除を終り園丁が晝辨に行た留守中午後零時四十分頃火を發して霜除藁に燃移りたれば一面の火となり向芝生にも燒ひろがり折柄少しく風もありたれば園丁警官に通行人が馳集まり下駄で踏むやら絆天で叩くやら漸く消止めたるが名物の蘇鐵を黑焦にしたり上芝生二三十坪を燒きたり原因は烟草の吹殼ならんと